

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	ピノキオ幼児舎荻窪保育園
法人名	株式会社ピノコーポレーション
法人所在地	東京都杉並区高円寺南4-26-16 ビクトリアプラザ3階

1. 活動のテーマ

<テーマ>

「つくる」
～身近な素材や食材を使って試し、その違いや変化を探究する～

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
廃材を使った制作や、身近な素材を使って物をつくる遊びを自由遊びの中で楽しむ子どもが多く見られた。新聞紙や空き容器などの素材を使って、自分なりに形を作ったり見立てたりする姿が日常的に見られていたことから、子どもたちの「つくる」ことへの興味関心をさらに広げ、素材や作り方を工夫する経験につなげていきたいと考え、本テーマを設定した。
また、制作活動をきっかけに、素材の違いや作り方の工夫に気づいたり、「どうやってできているのだろう」という疑問を持ったりする姿も見られたことから、活動を造形だけでなく食育などにも発展させ、子どもたちの探究的な学びにつながるよう取り組んだ。

2. 活動スケジュール

制作活動から始まった子どもたちの興味が、食材や調味料の変化などにも広がり、活動が段階的に発展していった。

- ・ 4月 進級後、自由遊びの中で廃材等を使った制作遊びを好む姿が見られる。
- ・ 6月 「つくる」をテーマに新聞紙を使った制作活動を実施。新聞紙を丸めたり広げたりしながら様々な形を作り、バッグやボールなどを作る遊びを行う。
- ・ 7月 制作活動の中で「食べ物を作りたい」という声上がり、食育活動としてゴミ作りを実施。
- ・ 10月 調味料に興味を持ったことをきっかけに、ドレッシング作りを行う。
- ・ 11月 ドレッシング作りの活動を発展させ、マヨネーズ作りを実施。
- ・ 1月 作ったドレッシングや市販のドレッシングを使い、どの食材にどのドレッシングが合うかを試す活動を行い、味の違いや好みについて話し合った。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

新聞紙、トレー、割りばし、リボン、テープなど様々な素材を用意し、子どもたちが自由に選びながら制作できる環境を整えた。素材の違いによって作れるものや形の変化が生まれることを体験できるよう、複数の素材を組み合わせさせて使えるようにした。

また、食育活動ではゼラチン、ジュース、卵、油、酢などの食材や調味料を準備し、調理の先生と連携しながら安全面に配慮して活動を行った。

さらに、スーパーにドレッシングの種類を見に行ったり、パソコンを用いてマヨネーズの作り方を動画で見たりすることで、実際の食品がどのように作られているのかを知る機会を設けた。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

新聞紙を使った制作活動を行い、子どもたちはそれぞれの発想でバッグやボール、レジャーシートなどを作った。活動の中で「他の材料も使ってみよう」という声上がり、トレーや割りばし、リボンなど様々な素材を取り入れながら制作を楽しむ姿が見られた。

制作活動の中で食べ物の話題が広がったことをきっかけに、食育活動としてグミ作りを行った。さらに「自分の好きな味を作ってみよう」という声からドレッシング作りへと発展し、調味料への興味も広がっていった。その中で「マヨネーズはどうやって作るのだろう」という疑問が生まれたことから手作りマヨネーズ作り挑戦した。一度はうまく作れなかったが、油の入れ方や混ぜ方を工夫しながら再度挑戦する姿が見られた。

最後には、様々なドレッシングを使ってどの食材に合うのかを試す活動を行い、味の違いや好みについて子ども同士で伝え合う姿が見られた。このように、制作活動から始まった子どもたちの興味が、食材の変化や調味料の働きへと広がり、試したり比べたりする探究的な活動へと発展していった。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

新聞紙や様々な材料を使った制作活動では、子どもたちは夢中になって手を動かしながら作品を作り、友だちと一緒に作り方を考えたり、友だちの作り方を真似したりする姿が見られた。「こうやったらできるよ」「これをつけたらどう？」など子ども同士で声をかけ合いながら活動を進める様子も見られた。

食育活動に発展すると、子どもたちは初めて使う調味料や食材にも興味を示し、「これ何?」「どうやって作るの?」と質問する姿が見られた。また給食の時間にも「これには砂糖が入っているかな」「醤油かな」と味について考えるなど、日常の食事の中でも味の探究をするようになった。グミ作りではゼラチンが固まる様子に驚いたり、マヨネーズ作りでは油と卵が混ざり乳化していく様子を見て「さっきと違う」「固くなってきた」と変化に気づく姿が見られた。

一度失敗したマヨネーズ作りでは、「なんでできないんだろう」「もう一回やってみたい」と子どもたちから声上がり、油の入れ方を変えて再挑戦するなど、試行錯誤する姿も見られた。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

子どもたちが好きな制作活動からスタートし、その興味を少しずつ広げていくことで、食育活動へと自然に発展していった。ドレッシングやマヨネーズ作りなど、乳化や調味料の種類など保育の中ではなかなか触れる機会の少ない内容にも、調理師と連携することで活動を広げることができ、子どもたちの探究心につながる良い経験となった。

また、子どもたちの発言や興味に耳を傾けながら活動を進めていくことで、活動がより深まり、子どもたち自身が「試してみたい」「もう一度やってみたい」と主体的に関わる姿が見られた。子どもたちの声を拾いながら興味を広げていくことの大切さや面白さを改めて感じる機会となった。